

1  
 特集

# 「報道機関と埼玉大学との懇談会2020」を開催

 Vol.25  
 November  
 2020

—埼玉大学発展・変革ビジョンなどを発表—

9月23日(水)、さいたま市浦和区の埼玉会館で、埼玉県政記者クラブに加盟している報道各社と「報道機関と埼玉大学との懇談会2020」を開催しました。この会合は、平成18年度より毎年開催されているもので、大学を巡る昨今の動向や研究成果などを紹介するとともに、意見交換・情報交換を行うことにより、互いの信頼関係をさらに深め、報道各社のご理解・ご協力の下、円滑な大学運営に資することを目的としております。

## ◆ 第一部 埼玉大学記者会見

第一部では、埼玉県政記者クラブの記者を対象に、埼玉大学記者会見を開催しました。

下記の発表事項について、役員、副学長より説明の後、記者からの質疑応答を行い、会見内容については、当日の夕方のニュースや翌日の新聞各紙で広く取り上げられました。

### 【発表事項】

- 1 社会の変革を見据えた新たな発展に向けた変革ビジョン  
(埼玉大学発展・変革ビジョン)
- 2 埼玉大学における新型コロナウイルス感染症への対応等について
- 3 埼玉大学における新型コロナウイルス感染症対策に伴う令和3年度入学選抜実施の対応について
- 4 2020年度 埼玉大学ウェブセミナー  
「新しい生活様式への挑戦 ～感染症と共存する社会とは～」
- 5 埼玉ならではの大学院教育学研究科へ —教職大学院の拡充—



▲記者会見にて発表する坂井貴文学長



▲記者会見場の様子

## ◆ 第二部 埼玉県報道責任者会議と埼玉大学との懇談

第二部では、さいたま市内に支局を置く報道機関12社の支局長が加盟する埼玉県報道責任者会議と本学関係者(役員、副学長、研究科長、学部長等)が懇談し、参加者の紹介後、坂井学長より「埼玉大学の現状とこれから—地域、国内外に確固とした存在感を持つ活気ある埼玉大学を目指して—」、田代副学長(ダイバーシティ推進・キャンパス環境改善担当)より「埼玉大学のダイバーシティ推進の取り組み」についてプレゼンテーションが行われました。

その後の意見交換では、重原理事(研究・産学官連携担当)・副学長がコーディネーターを務め、新学長が目指す大学の方向性、埼玉大学ならではの強み、ダイバーシティ推進活動の期待、卒業生ノーベル賞受賞後の大学の変化、大学全般における対面授業開始のスピード感などについて活発な議論が行われました。



▲懇談会の様子

## 2 教育 令和2年度秋季学位授与式を挙行 86名が埼玉大学を巣立つ

9月23日(水)、大学会館大集会室において、令和2年度秋季埼玉大学学位授与式を挙行了しました。

令和2年秋季は、社会人学生や15カ国からの留学生（中国、バングラデシュ、ベトナム、モンゴル、ミャンマー、アフガニスタン、イタリア、フランス、タイ、スリランカ、ネパール、マレーシア、ニュージーランド、パキスタン）を含む86名（博士26名、修士35名、学士25名）が卒業・修了し、坂井学長から学位記が授与されました。

### 《式次第》

- 一、開式の辞
- 一、学位記授与
- 一、学長式辞
- 一、修了生代表挨拶
- 一、卒業生代表挨拶
- 一、閉式の辞



▲式辞を述べる坂井学長



▲共に学んだ仲間と一緒に

## 3 教育 令和2年度秋季入学式は中止に ホームページに学長メッセージ動画を公開

新型コロナウイルス感染症の影響により、秋季入学生の大半を占める留学生が来日できないことから、令和2年度埼玉大学秋季入学式は中止となりました。

入学式にて新入生へお伝えする予定だった坂井学長の式辞は、留学生も視聴できるように英語字幕を付したメッセージ動画として、大学ホームページに掲載しております。



こちらからご覧ください▶



▲学長メッセージ動画より

## 4 教育 第3・4タームの授業について

9月25日(金)から第3タームの授業が始まりました。第1・2タームに引き続き、第3・4タームの授業もオンライン中心で進める一方、一部対面授業を再開しています。

また、対面授業受講者で前後の時に遠隔授業があり、自宅に戻ってから受講する時間がない場合に学内で遠隔授業を受講できるよう、全学講義棟1号館の講義室を用意しています。学内で受講する場合には、手洗いと消毒の徹底やソーシャルディスタンス確保等、感染予防を十分に行い、大学に来て授業を受けるという日常に少しずつでも戻れるよう、これからも大学一丸となって取り組んでまいります。



▲学内で遠隔授業を受講する学生

## 5 教育 「新入生ピアサポート・アワー Zoom」開催! ~新入生の悩みを埼大ピアサポーターがまるっと解決~

新型コロナウイルス感染症が拡大し緊急事態宣言がなされ、入学前に思い描いていたようなキャンパスライフを十分に過ごせない、友だち作りもままならないといった、新入生の不安を少しでも解消できればと、先輩在学生や同級生と質問や相談する機会として「新入生ピアサポート・アワー」をオンライン上(Zoom)で開催しました。

所属学部ごとに、先輩学生がピア(仲間)として参加し、新入生の質問に答えるスタイルで実施しました。履修や進路に関する入学後に生じた悩みから、サークル活動やアルバイトなどの身近な話題まで、幅広いジャンルの話題で盛り上がり、活発な意見交換が行われました。



▲経済学部の様子

## 6 国際 留学生とのオンライン交流プログラムを実施

埼玉大学では例年6月、協定校の学生を対象にした4週間の短期留学「サマープログラム」を実施していますが、今年は新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。また、本学においても海外の協定校への留学予定を延期あるいは辞退せざるをえなかった学生がいます。

この状況をふまえ、国際室では、サマープログラムに参加予定であった留学生と、協定校へ留学予定であった本学学生がオンラインで交流するプログラムを、7月末から約1ヶ月間実施しました。

5カ国の留学生12名と、埼玉大学生7名が参加。時差や留学先を考慮し、オンラインでも連絡が取りやすいよう少人数のグループを作り、自由に交流しな

がら、最後の全体ミーティングで発表する準備を進め、発表会では、グループごとに工夫を凝らした発表を行いました。



▲多くの学生が自宅や実家から参加

## 7 学生 埼玉県知事への政策提言参加者へ、県警から感謝状が授与されました

本学交通計画研究室の学生たちが「埼玉県知事への政策提言」で提案した交通安全対策のうち、埼玉県警が実際に採用した「感謝型看板」について、交通安全啓発に多大な協力があったとして、埼玉県警交通部長より感謝状が贈呈されました。

「埼玉県知事への政策提言」は、若者の感性を県政に生かすとともに、学生の活きた学習の場として活用されることを目的として、平成22年度から埼玉県と埼玉大学で取り組んでいるものです。今回、交通計画研究室の学生たちは「歩行者優先!→ストレスフリー横断歩道を目指して」をテーマに、信号のない横断歩道で車の運転手に一時停止を啓発する取組を提案。従来の看板は

「止まれ」「歩行者に注意」といった命令調が多い中、「人は感謝されると指示に従いやすくなる」という心理的な特性を生かし、感謝メッセージ型の電柱幕を作成しました。

感謝メッセージ型電柱幕は県内39署に配布され、信号機のない横断歩道脇の電柱などに設置されています。



▲さいたま市中央区に設置されている電柱幕

## 8 学生 第71回むつめ祭の中止について

令和2年度のむつめ祭については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、中止することとしました。

詳細は、むつめ祭常任委員会のホームページをご覧ください。

【むつめ祭常任委員会ウェブサイト】

第71回むつめ祭中止のお知らせ

<https://mutsume.com/info/info71.html>



▲(左から)大学院理工学研究科 郝さん、高橋さん、若林さん、埼玉県警 関口交通部長

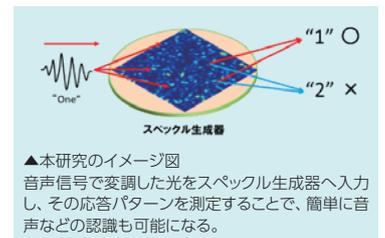
## 9 研究 光の波動でAI計算! ~超高速・並列AI処理の実現に向けた大きな一歩~

埼玉大学大学院理工学研究科数理電子情報部門の内田淳史教授、菅野円隆助教、金沢大学理工研究域機械工学系の砂田哲准教授の共同研究グループは、脳のような高度かつ柔軟な情報処理を光の物理現象に担わせることで、ニューラルネットワークのような機械学習が可能となることを実証しました。

本研究では、スペckル現象と呼ばれる光学現象に着目し、光の干渉現象によって生み出される多様な波動現象を利用した新しい計算原理に基づく機械学習により、複数の時系列信号の高速予測処理が可能であることを見いだしました。この光波動の計算システムは、従来の電子型コンピュータよりも飛躍

的に高効率な情報処理を実現する可能性を秘めているだけでなく、1つの光デバイスで独立した複数のタスクを並列的に実行できる特徴を有します。

今後、本計算原理をさらに高度化することにより、高速性と並列性を兼ね備えた新しいAIチップへの発展が期待されます。さらに、光通信分野での情報処理効率を飛躍的に高めるデバイスとしての応用も期待できます。



▲本研究のイメージ図  
音声信号で変調した光をスペckル生成器へ入力し、その応答パターンを測定することで、簡単に音声などの認識も可能になる。

## 10 研究 「JAPANブランド育成支援等事業(特別枠)支援型」に採択 (大学院理工学研究科 綿貫 啓一 教授)

公益財団法人さいたま市産業創造財団および本学先端産業国際ラボラトリー(所長:綿貫啓一教授)は、中小企業庁令和2年度補正予算事業「JAPANブランド育成支援等事業(特別枠)支援型」に採択され、北米とのグローバル連携によるさいたま発医療機器の競争優位・ブランド確立プロジェクトを実施します。

JAPANブランド育成支援等事業(特別枠)の支援型は、民間支援事業者や地域の支援機関等が、複数の中小企業者に対して海外展開や全国展開、新た

な観光需要の獲得に関する支援(調査研究や新商品・サービス開発の支援、効率的なツールの提供等)を行うものです。

本事業では、ポストコロナに向け、ドイツ展開で培った海外展開ノウハウを生かし、北米とのグローバル産学・産産連携による技術交流を通じたものづくり基盤技術の競争優位強化にて、さいたま発医療機器を北米ハイエンドマーケットへ向けて発信し、ブランド確立・販路拡大を図ります。

11 物質・デバイス共同研究賞を受賞 (大学院理工学研究科 西山 佳孝 教授)

この度、本学教員が第2回物質・デバイス共同研究賞を受賞いたしました。この賞は、物質・デバイス研究の多大なる発展に寄与をした共同研究課題および研究グループを表彰するものです。

なお、この共同研究は、物質・デバイス領域共同研究拠点(北海道大学・東北大学・東京工業大学・大阪大学・九州大学の共同研究ネットワーク)によって運営されています。

第2回 物質・デバイス共同研究賞

- ◆ 課題名: 光合成のレドックス制御と環境応答の分子機構
- ◆ 研究代表者: 大学院理工学研究科 西山 佳孝 教授



12 産学官 経済産業省 「令和2年度戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)」において 本学から5件採択されました

「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」に基づく支援策の一環として、中小企業者等が産学官連携などにより、ものづくり基盤技術の高度化を図るための研究開発、試作品開発及び販路開拓等の取組を促進することを目的とし、経済産業省は、このような取組を支援する戦略的基盤技術高度化支援事業の公募を行いました。全体で326件の申請のうち102件の事業が採択され、本学では5件が採択されました。

《本学で採択された研究開発計画》

- マイクロ波プロセスを利用した建材用低コスト不燃木材の開発  
大学院理工学研究科 廣瀬 卓司 教授
- ITバイオと進化学を融合した高機能化人工次世代抗体VHHの開発  
大学院理工学研究科 松永 康佑 准教授
- IoTロータリーバルブおよびAIリモートメンテナンスシステムの開発  
大学院理工学研究科 綿貫 啓一 教授
- 製品の色に基準値を与えることでAI自動配色できる総合色管理システムの開発  
大学院理工学研究科 小林 貴訓 教授
- 電極が不要で簡便な結晶欠陥準位の定量分光分析装置の研究開発  
大学院理工学研究科 鎌田 憲彦 教授

埼玉大学基金室より 埼玉大学古本募金 きしゃぼん のご案内

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。

今回は、埼玉大学古本募金のご紹介をさせていただきます。埼玉大学古本募金は、読み終えた書籍やDVD等を「古本募金 きしゃぼん」(運営: 嵯峨野株式会社)にお送りいただくことで、その査定額を埼玉大学基金にご寄附いただく制度です。5冊(5点)以上であれば送料は無料です。

詳細は下記ホームページをご覧くださいませよう願いたします。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。



募金になるもの

- 本 (Books)
- DVD
- CD
- ゲーム (Games)
- 切手 (Stamps)
- はがき (Postcards)
- 貴金属 (Precious Metals)
- ブランド品 (Branded Goods)

書籍はISBNコードがあるかご確認ください。  
※裏表紙、奥付等があります。

(WEB受付) 24時間・365日

WEB 埼玉大学古本募金

www.kishapon.com/saitama-u/

(電話受付) 9時～18時

0120-29-7000 [埼玉大学への寄付]とお伝えください

◆ 埼玉大学基金のご報告

令和2年9月末の状況 529,313,822円

うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 915,170円

埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/ 古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/)の「3.古本募金」からもご覧いただけます。

